



 Data	2022-34
製作・脚本・監督: ケネス・ブラナー	
—	
出演: カトリーナ・バルフ / ジュディ・デンチ / ジェイミー・ドナン / キアラン・ハインズ / ルイス・マカスキー / ララ・マクドネル / ジュード・ヒル	
—	
—	
—	

## 👁️👁️ みどころ

人間は誰でも、一定の成功を収め一定の年齢になれば、昔を振り返り、故郷を懐かしむもの。しかして、シェイクスピア俳優として、また監督として大きな栄誉を得たケネス・ブラナーが“自伝フィクション (オートフィクション)”として製作・脚本・監督した『ベルファスト』とは？

カトリックとプロテスタントの宗教対立はメアリーVSエリザベスの対立でも有名だが、1969年8月15日、北アイルランドの小さなまち、ベルファストでは、一体何が？

ロシア軍の侵攻によってウクライナの各都市では、家族の絆が崩壊し、命の危険にさらされているが、それは彼の地でも同じ。国外脱出？それとも・・・？既に“ナイト”の爵位を持つ彼に、アカデミー賞脚本賞受賞の肩書が加わったことに拍手しながら、本作をしっかりと味わいたい。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### ■□ 『ベルファスト』ってナニ？わが故郷を回想すれば？■□

『ベルファスト』って一体ナニ？それは、本作の脚本を書き、監督・製作したケネス・ブラナーの生まれ故郷の名前で、北アイルランドにある小さなまちだ。ロシアによるウクライナ侵攻は既に1カ月に及んでいるが、それによって既に有名だったウクライナの首都キエフの他、東南部のマリウポリやドネツク、西部のリビウ等の都市の名前が有名になっている。しかし、『ベルファスト』は、ケネス・ブラナーが“自伝フィクション (オートフィクション)”として本作をつくり、第94回アカデミー賞作品賞等、7部門にノミネートされたことによって有名になったものだ。

本作のチラシには、左手に盾、右手に剣を持った少年バディが楽しそうに街の中を駆け抜ける姿が写っているが、これがケネス・ブラナー監督の少年時代の姿らしい。その時代

は1969年、バディが9歳の時だが、その年の8月15日、ベルファストでは一体ナニが・・・？

## ■カトリックVSプロテスタントの対立はここまで！■

第2次世界大戦後、イギリスからの独立を目指したインドが統一国家になれず、インドとパキスタンに分かれたのは、イスラム教とヒンズー教の宗教対立を克服できなかったため。また、世界史で習った中世の十字軍の物語は、キリスト教がイスラム教を制圧するためだった。キリスト教（ユダヤ教）は“汝の敵を愛せよ”と教えたはずなのに、なぜそんな“宗教対立”による殺し合いが生まれたの？キリスト教は他宗派をやっつけようとしたばかりか、内部でもカトリックとプロテスタントに分かれて対立したが、それは、『エリザベス：ゴールデン・エイジ』（07年）（『シネマ18』174頁）で描かれたエリザベスとメアリーとの対立でも有名だ。

ベルファストで1969年8月15日に起きた暴動は、プロテスタントの武装集団がカトリック教徒を追い出すために起こしたもの。バディは①厳しくも愛情深い母親マ（カトリーナ・バルブ）、②つけんどんだが優しい兄ウィル（ルイス・マクスキー）、③良き相談相手の祖母グラニー（ジュディ・デンチ）、④穏やかで愉快的祖父ポップ（キアラン・ハインズ）、⑤家計のためにイギリスに出稼ぎに行っている父パ（ジェイミー・ドーナ）と楽しい時間を過ごしていたが、この暴動によって、故郷のベルファストは大打撃を受けることに・・・。

## ■大人の対立は深刻！しかし、子供目線では？■

1969年8月といえば、私が“ベトナム戦争反対”と“大学改革”をテーマとした学生運動に没頭していた時期。ニュースとしては、断片的に北アイルランドのカトリックVSプロテスタントの対立は知っていたが、それが本作のような大問題だったとは！警察は一体誰の味方なの？そして一体何をしているの？スクリーン上には、住民が自警団を組織し、バリケードを築く姿が描かれるが、あの暴動によって本当にベルファストのまちはこんなに変わってしまったの？そんな時代状況の中、ロンドンに出稼ぎに行っている父親パのあり方が問われるのは当然だが、さてその行方は？

他方、大人の世界にこんな激動が起きても、9歳の男の子の恋心の展開は変わらないところが面白い。本作では、クラスメイトの女の子キャサリン（オリブ・テナント）との『小さな恋のメロディ』（71年）と同じような（？）淡い初恋の姿が描かれるので、それにも注目！もっとも暴徒の一人であるビリー・クラントン（コリン・モーガン）が「バも運動に加わるべきだ」と迫っていたから、バディたち一家は大変。パが出稼ぎに行っている間に家族が襲われたらどうなるの？本作では、夫の留守を預かる母親マの気丈さが際立っているが、こんな母親に守られていたバディは幸せだ。しかし、事態は刻々と切迫してくることに・・・。

## ■□■残留？それとも移住？その決断は？■□■

現在、ウクライナ各地の住民は、最終的に国内に残るか国外に出ていくかの決断を迫られている。それはベルファストの住民も同じだ。子供の意見を尊重する両親から意見を聴かれたバディは、「出ていくのはイヤ！」とダダをこね、マもベルファストを離れることを容易に受け付けなかった。しかし、ロンドンの職場で好条件での受け入れが決まると、パは・・・？

再放送していた NHK 大河ドラマ『黄金の日々』の最終回では、堺を捨ててルソン島へ移住するか、それとも大阪や江戸で再出発するかを、すべて住民の自由意思で決めることになった。これは、自由に生きることこそが自由都市・堺の堺たるゆえんであり、堺の土地にとどまることが自由都市・堺ではないという、納屋（呂宋）助左衛門の力強く、かつ説得力ある提案のおかげだったが、さてバディたち一家の選択は・・・？

2022（令和4）年3月30日記